

学力低下は本当に起きているの？

～ ある大学生が文部省に聞いてみました ～

大学生「最近、大学生の学力低下が新聞、テレビでよく取り上げられていますが、今一体どのようなことが起きているのですか？」

文部省「今言われている学力低下には二つの面があると思います。一つは今の大学生全体の平均的な学力水準が昔に比べて落ちているという指摘、もう一つは今の大学生は一般的に学ぶことに対する意欲、関心、動機、心構えが昔に比べて劣っているということです。このようなことがトップレベルと言われている大学の学生も含めて、指摘されています。」

大学生「その二つの学力低下には何か違いがあるのですか？」

文部省「まず一つ目の方は、昭和30年頃の1割程度の大学進学率が、今は5割近くまで上昇しましたから、そのころに比べたら全体として平均的な水準が下がるのはやむを得ないのではないのでしょうか。要するに、一部の人が大学に行っていた時代ではなく、大学に行きたいと思う人がよりたくさん大学に行けるようになったということです。しかし、二つ目の方には問題があると思いますね。」

大学生「それでは、こうした状況に対してどのような対応が必要と考えているのですか？」

文部省「まず、大学で何を学びたいのかというモチベーションを持てるような教育をしていきたいと思います。今の大学生の中で、どれだけの学生が興味を持って講義を聞いているのでしょうか。おそらく、胸を張って言えるような状況ではないと思います。何かを『学びたい』という気持ちを持って大学に入るようにしなければいけません。また、受け入れる大学側も学生の興味・関心・意欲といったものを最大限引き出していけるよう教育内容・授業方法を絶えず見直し、責任を持った教育を行っていかねばなりません。」

大学生「他には、何かありませんか？」

文部省「もう一つあります。それは、試験の時にだけ詰め込むような教育をやめていきましょうということです。詰め込むからすぐに忘れてしまうのではないのでしょうか。単に試験があるから勉強するというのではなぜ学ぶのかという意味も分からないし、学んだことがしっかりと身に付くこともありません。自分から『学びたい』と思うようなゆとりある教育を進めていかなければいけません。」

大学生「今回の学習指導要領の改訂により、小・中学校の教育内容を3割削減し、高校も最低必修単位数を減らしたと聞きましたが、これが学力低下を招くことにはなりませんか？」

文部省「確かに全員が共通に学ぶ知識の量は減ることになります。しかし、基礎・基本をしっかりと習得するようになり、知的好奇心・探求心を身に付けることによって[生きる力]としての学力の質を向上させることができます。また、特に中学校・高等学校では、選択学習の幅をこれまで以上に拡大していますので、生徒の興味・関心に応じ、発展的な内容や高度な内容を学べます。」

大学生「なるほど、よく分かりました。わたし自身はゆとりある教育を受けてきたとは言えませんが、文部省の言うような学校になれば自分から学びたいと思えるようになるのではないのでしょうか。これからも、子どもたちの『学びたい』という気持ちを育ててあげるような教育を進めていってください。」